

## 新たな商業エリアが続々登場

武漢は昔から水運と物流の便利さにより、商業都市として発展してきました。21世紀に入り、商業はますます発展速度が速まっています。武漢市内には武漢三鎮（漢口、武昌、漢陽）と呼ばれる三つのエリアがあり、それぞれの商業エリアを構成しています。武漢市民にとって、ショッピングといえば、漢口地区では、歩行者天国の江漢路一王府井デパート一万達広場エリア、又は解放大道沿いの新世界一武商商業連合—SOGOエリアの2ヶ所、武昌地区では、中南商業エリアか徐東商業エリア、漢陽地区では、鐘家村商業エリアが定番でした。

最近では、古い商業エリア周辺の交通渋滞問題、人口集中問題に加え、都市建設の拡大及び新世代若者の成長とともに、商業に対するニーズも細分化、多元化してきました。そのため、武漢市第12回5ヶ年計画の一環として、新しい商業スポットも続々と武漢三鎮に誕生しています。

## 国内大手開発業者による武漢進出



菱角湖万達広場の夜景

2010年12月、菱角湖万達広場の開業と共に、これまで北京、上海や深センにしかなかったブランドのZARA、H&M、UNIQLOなどが続々と武漢に出店し、武漢のファッションブランドが一層国

際化しました。

この広場は中国の大手開発業者、大連万達集団により建設された大型商業施設であり、武漢市江漢区新華下路の西側に位置し、総計画敷地面積9.47万㎡、総建築面積は地下11万㎡、地上40万㎡、ショッピング、娯楽、飲食が一体化した大型ショッピングモール、オフィスビル、高級マンションから構成されています。

## 武漢は商業不動産国際化時代に突入

北京と上海で大成功を収めた大型高級商業施設「天地」を運営する瑞安不動産会社も、武漢天地3期が竣工した現在、大型ショッピングモールの建設に着手しました。2013年に開業する予定の武漢天地ショッピングモールは、オランダに籍を置き、ヨーロッパで小売業及び不動産業を展開するRedevcoグループと瑞安不動産が初めて合作開発した商

業プロジェクトであり、2013年の開業時には、多くのブランドが同ショッピングモールに進出し、特に一部の国内トップブランドはここを拠点に、中国の内陸部市場への進出を計画しています。

Redevcoグループは、中国の高級品消費市場は大都市から地方都市に移行すると判断し、武漢は、長期投資の面から見ても経営リスクが低く、潜在能力が高い都市として注目しています。

## 伝統文化商業スポットの建設 青島路、吉慶街、沿江大道改造プロジェクト



改造中の青島路の様子



新吉慶街の民国風の建物

武漢のもっとも古い江漢路商業地区の周辺地域にも、新しい商業エリアの建設が進んでいます。旧外国人居住区の周辺地区、青島路あたり、吉慶街民俗文化区及び沿江大道の改造プロジェクトは、地下鉄工事と共に進められています。また、歴史的建造物周辺の旧住民区を移住させ、旧外国人居住区を復元しています。将来的には、伝統文化商業地区として国内外の観光客を誘致し、買い物をし

ながら武漢の歴史と文化を楽しむような施設となる予定です。

このほか、武昌では、光バレー商業スポット、武昌長江沿いの積玉橋万達広場、漢陽のモールシティ、漢口の武漢国際広場ショッピングモールなどの新興商業スポットもそれぞれの特色を持って、武漢商業の新業態を支えています。新旧商業エリアの相互発展は、国内外からの投資を呼び込み、武漢を中心に周辺地域を巻き込んで経済発展を実現しています。